

釧路神社に白龍の大作奉納



白龍の図の大作と共に宮田社長（前列左から2人目）と黒滝さん（同3人目）

【釧路町】国道391号沿いの丘の上に建つ釧路神社（宮司・菊池吉郎釧路厳島神社宮司、町遠野52）に、道東一帯を上空から俯瞰する白龍の姿を描いた大迫力の絵が奉納された。2日には作者の黒滝博さん（76）＝鶴雅グループ常務取締役＝や創作を依頼した宮田昌利サンエス電気通信社長ら関係者による奉納式を実施。神社の新しい宝の存在に「この絵を見たいと参拝者が大いに増えるのでは」と言葉を弾ませた。

黒滝さん制作 参拝者増に期待

「白龍の図・釧路神社」は、2024年5月に愛媛県の版画絵はがきコンテストで黒滝さんが特別賞を受賞したニュースを釧路新聞で確認した宮田社長が、白龍の絵を依頼したのがきっかけ。その理由は、その絵はがきに描き込まれた題材が、阿寒湖のサライ島の白龍神社に伝わる道東一帯、北方領土から知床、屈斜路湖、摩周湖、阿寒湖の上空を宝玉を抱えてとぐろを巻くように飛ぶ白龍の姿だった。

この絵はがきの特別賞受賞を知った釧路厳島神社総代の一人でもある宮田社長が早速黒滝さんに絵の制作を依頼すると、

快諾を得た。ところが待てど暮らせど、なかなか完成したという知らせが届かなかったという。

黒滝さんは「白龍を描き、釧路神社を描き、さらに道東の草花を描き足していくとなかなか終わらなくなった。出張から帰って絵を見ると、ここに……、こちらには……、と一年がかかってしまった」と笑う。

出来上がった大作に宮田社長も満足し、この絵を買ひ上げて神社に奉納しようとした。しかし黒滝さんは「この絵でお金をもらうことはできない」と自身が贈呈者となり、宮田社長は大作を取る額縁を寄付することになった。M50号サイズの大作は、大人たちが並んでもまだ大きい迫力ある絵。見れば見るほど美

しい草花が描かれており、ゆっくり、じっくりと鑑賞する価値のある出来映えだ。

黒滝さんは「この道東は、風水の専門家から見てもとても魅力があると

（伊東義晃）